

有明工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	地域協働演習 I	
科目基礎情報							
科目番号	0029			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 1		
開設学科	建築学専攻			対象学年	専1		
開設期	通年			週時間数	前期:2 後期:2		
教科書/教材	適宜プリント配付						
担当教員	松岡 高弘,上原 修一,金田 一男,近藤 恵美,加藤 浩司,岩下 勉,下田 誠也,藤原 ひとみ,正木 哲,窪田 真樹						
到達目標							
1. 工学の基礎的な知識・技術を駆使して調査を企画・実行し、データを分析し、工学的に考察できること。 2. 学習成果を、図表を用いて論理的に説明できること。 3. 限られた時間の中で、課せられた課題に対処できること。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	工学の基礎的な知識・技術を駆使して的確に調査を企画・実行し、データを正確に分析し、工学的に深く考察できる。			工学の基礎的な知識・技術を駆使して調査を企画・実行し、データを分析し、工学的に考察できる。		企画・実施した調査の内容、もしくは、得られたデータの分析に重大な欠陥がある。	
評価項目2	学習成果を、適切な図表を用い、明快かつ論理的に説明できる。			学習成果を、図表を用いて論理的に説明できる。		学習成果を、図表を用いて論理的に説明することができない。	
評価項目3	限られた時間の中で、課せられた課題に対し、的確に対処できる。			限られた時間の中で、課せられた課題に対処できる。		限られた時間の中で、課せられた課題に対処することができない。	
学科の到達目標項目との関係							
学習教育到達目標 A-3 学習教育到達目標 B-3 学習教育到達目標 B-4 学習教育到達目標 C-1 学習教育到達目標 C-2							
教育方法等							
概要	荒尾市地域再生事業では、まちなか研究室を中心とし、多世代が織りなす活き活きとしたコミュニティが再生されつつある。そこで、本科目では、まちなか研究室及び周辺環境の整備について考える。 具体的には、まちなか研究室及び周辺環境の状況について実践的な課題を見出すための調査を企画・実施する。						
授業の進め方・方法	授業は、放課後や長期休暇中に行う。授業担当教員の指示に応じて製作の準備や作業、レポート作成、発表会の準備などを行う。授業時間外にも、積極的に現場に赴き、情報収集活動に努めること。						
注意点	本科目は、建築系の科目であるが、そこで必要になる知識・経験は建築の枠に留まるものではない。従って、建築界の動きはもちろん、日常の社会的問題にも常日頃から目を向けていることが必要である。特に、地方都市をめぐる問題への認識が求められる。						
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	オリエンテーション			本科目の目的と構成、進め方、ならびに評価方法等を知る。	
		2週	調査対象地の現状			調査対象地の現状を説明できること。	
		3週	まちなか研究室をめぐる動向			まちなか研究室をめぐる動向を説明できること。	
		4週	地域の団体との交流			地域の団体との交流を通じて、荒尾市地域再生事業について理解できること。	
		5週	地域の団体との交流			地域の団体との交流を通じて、荒尾市地域再生事業について理解できること。	
		6週	現状把握の成果と今後の取り組み方針の確認			多面的に現状を理解した上で、今後の取り組み方針を説明できること。	
		7週	調査の企画			課題解決のために必要な調査を、主体的な取り組みにより企画できること。	
		8週	調査の企画			課題解決のために必要な調査を、主体的な取り組みにより企画できること。	
	2ndQ	9週	調査の企画			課題解決のために必要な調査を、主体的な取り組みにより企画できること。	
		10週	調査の実施			課題解決のために必要な調査を、主体的な取り組みにより実施できること。	
		11週	データ分析と考察			調査で得たデータを適切な方法で分析し、適切な方法で考察できること。	
		12週	データ分析と考察			調査で得たデータを適切な方法で分析し、適切な方法で考察できること。	
		13週	データ分析と考察			調査で得たデータを適切な方法で分析し、適切な方法で考察できること。	
		14週	プレゼンテーション資料づくり			視覚的かつ論理的で、わかりやすいプレゼンテーション資料が作成できること。	
		15週	発表会と最終総括			論理的で、わかりやすいプレゼンテーションができること。	
		16週					
後期	3rdQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					

	4thQ	8週		
		9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週				
専門的能力	専門的能力の実質化	PBL教育	PBL教育	工学が関わっている数々の事象について、自らの専門知識を駆使して、情報を収集することができる。	4					
				集められた情報をもとに、状況を適確に分析することができる。	4					
				与えられた目標を達成するための解決方法を考えることができる。	4					
				状況分析の結果、問題（課題）を明確化することができる。	4					
				各種の発想法や計画立案手法を用いると、課題解決の際、効率的、合理的にプロジェクトを進めることができることを知っている。	4					
				各種の発想法、計画立案手法を用い、より効率的、合理的にプロジェクトを進めることができる。	4					
		共同教育	共同教育	クライアント（企業及び社会）の要求に適合するシステムやプロセスを開発することができる。	4					
				企画立案から実行するまでのプロセスを持続可能性の実現性を配慮して実行することができる。	4					
				品質、コスト、効率、スピード、納期などに対する視点を持つことができる。	4					
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識・教養が、企業及び社会でどのように活用されているかを理解し、技術・応用サービスの実施ができる。	4					
				地域や企業の現実の問題を踏まえ、その課題を明確化し、解決することができる。	4					
				問題解決のために、最適なチームワーク力、リーダーシップ力、マネジメント力などを身に付けることができる。	4					
				技術者として、幅広い人間性と問題解決力、社会貢献などの必要性を理解できる。	4					
				技術者として、生きる喜びや誇りを実感し、知恵や感性、チャレンジ精神などを駆使して実践創造的な活動を楽しむことを理解できる。	4					
				技術者として、社会に対して有益な価値を提供するために存在し、社会の期待に十分応えられてこそ、存在の価値のあることを理解できる。	4					
				企業人としても成長していく自分を意識し、継続的な自己研さんや学習が必要であることを理解できる。	4					
				分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	相手の意見を聞き、自分の意見を伝えることで、円滑なコミュニケーションを図ることができる。	3	
								相手を理解した上で、説明の方法を工夫しながら、自分の意見や考えをわかりやすく伝え、十分な理解を得ている。	3	
集団において、集団の意見を聞き、自分の意見も述べ、目的のために合意形成ができる。	3									
目的達成のために、考えられる提案の中からベターなものを選び合意形成の上で実現していくことができ、さらに、合意形成のための支援ができる。	3									
ICTやICTツール、文書等を基礎的な情報収集や情報発信に活用できる。	3									
ICTやICTツール、文書等を自らの専門分野において情報収集や情報発信に活用できる。	3									
現状と目標を把握し、その乖離の中に課題を見つけ、課題の因果関係や優先度を理解し、そこから主要な原因を見出そうと努力し、解決行動の提案をしようとしている。	3									
現状と目標を把握し、その乖離の中に課題を見つけ、課題の因果関係や優先度を理解し、発見した課題について主要な原因を見出し、論理的に解決策を立案し、具体的な実行策を絞り込むことができる。	3									
事象の本質を要約・整理し、構造化（誰が見てもわかりやすく）できる。	3									
複雑な事象の本質を整理し、構造化（誰が見てもわかりやすく）できる。結論の推定をするために、必要な条件を加え、要約・整理した内容から多様な観点を示し、自分の意見や手順を論理的に展開できる。	3									
態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	身内の中で、周囲の状況を改善すべく、自身の能力を発揮できる。					3		
			集団の中で、自身の能力を発揮して、組織の勢いを向上できる。					3		
			日常生活の時間管理、健康管理、金銭管理などができる。常に良い状態を維持するための努力を怠らない。					3		

				ストレスやプレッシャーに対し、自分自身をよく知り、解決を試みる行動をとることができる。日常生活の管理ができるとともに、目標達成のために対処することができる。	3	
				学生であっても社会全体を構成している一員としての意識を持って、行動することができる。	3	
				市民として社会の一員であることを理解し、社会に大きなマイナス影響を及ぼす行為を戒める。人間性・教養、モラルなど、社会的・地球的観点から物事を考えることができる。	3	
				チームワークの必要性・ルール・マナーを理解し、自分の感情の抑制、コントロールをし、他者の意見を尊重し、適切なコミュニケーションを持つとともに、当事者意識を持ち協調して共同作業・研究をすすめることができる。	3	
				組織やチームの目標や役割を理解し、他者の意見を尊重しながら、適切なコミュニケーションを持つとともに、成果をあげるために役割を超えた行動をとるなど、柔軟性を持った行動をとることができる。	3	
				法令を理解し遵守する。基本的人権について理解し、他者のおかれている状況を理解することができる。自分が関係している技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解し、技術者が社会に負っている責任を認識している。	3	
				法令を理解し遵守する。研究などで使用する、他者のおかれている状況を理解できる。自分が関係している技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解し、技術者が社会に負っている責任を認識し、身近で起こる関連した情報や見解の収集に努めるなど、技術の成果が社会に受け入れられるよう行動できる。	3	
				未来の多くの可能性から技術の発展と持続的社会の在り方を理解し、自らのキャリアを考えることができる。	3	
				技術の発展と持続的社会の在り方に関する知識を有し、未来社会を考察することができるとともに、技術の創造や自らのキャリアをデザインすることが考慮できる。	3	
	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	工学的な課題を論理的・合理的な方法で明確化できる。	3	
				公衆の健康、安全、文化、社会、環境への影響などの多様な観点から課題解決のために配慮すべきことを認識している。	3	
				クライアントの要求を解決するための設計解を作り出すプロセスを理解し、設計解を創案できる。さらに、創案した設計解が要求を解決するものであるかを評価しなければならないことを理解する。	3	
				クライアントの要求を解決するための設計解を作り出すプロセスを理解し、設計解を創案できる。さらに、創案した設計解が要求を解決するものであるかを評価しデザインすることができる。	3	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	100	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	70	0	70
分野横断的能力	0	0	0	0	30	0	30